

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ヘルプ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

2/22 土 『世界一美しい本を作る男 - シュタイデルとの旅 -』 特別上映会に寄せて

世界一
美しい
本を
作る男

- シュタイデルとの旅 -



デザイナーのカール・ラガーフェルド氏との打ち合わせ風景

監督: ゲレオン・ヴェツェル、ヨルク・アドルフ
原題: How to Make a Book with Steidl
2010年 / ドイツ / 88分
公式サイト: <http://steidl-movie.com/>

英語で“touch”が「感動させる」という意味をもつことに象徴されるように、触れるということは人びとのところにとって大きな作用がある。そして、活字の連なりを読み解いていく過程は、紙（背景）の色や字体やそのサイズに向き合うことなしに成立しない。

スマートフォンやタブレット端末の普及は、タッチパネルで感覚的に操作できることを世の中のスタンダードにした。それらの機器を通して接するインターネットの世界、とくにウェブサイトは、ここ数年でその現われ方が飛躍的な変化を遂げた印象がある。このようなことの影響もあると思うが、本も多様なカタチが生まれてきていると思う。

『世界一美しい本を作る男 - シュタイデルとの旅 -』を観た当初は、本というメディアの存続にこだわる職人としてのシュタイデル氏の印象が強かった。そうした一面があることは確かで、それが素晴らしいのだが、時間の経過とともに、シュタイデル氏が本以外のメディアの専門家になっていたとしても、きっとこだわりを尽くして表現者の意図を分析的確にアドバイスするであろうとの推論が成り立つと考えるようになった。さらに掘れば、ただ指示を受けるのではなく、対話のなかで答えを一緒に探していく姿勢は、本作りに限らず、さまざまな仕事・場面で重要なのだ、と。

ここを通わせるコミュニケーションを土台にした共同作業が、情熱の塊としての作品（=本）を生み出し、多くの人びとのところを動かす。こだわりぬかれたそれらは、金銭的な価値が高まるだけでなく、精神的にも感覚的にも刺激に満ちた芸術表現として認められる……。そんな究極の仕事に触れて、私たち一人ひとりの生活のなかで何を大切にし価値を見出すべきか、あらためて考えたい。（山口 渉）

世界一美しい本を作る男

- シュタイデルとの旅 -

特別上映会特設ページ: <http://www.tamaeiga.org/special/steidl>

2014年2月22日(土) ヘルプホール (ヘルプ永山 5F)

10:30 — 11:58 第1回上映

13:00 — 14:28 第2回上映

15:30 — 16:58 第3回上映

18:00 — 19:28 第4回上映

*全席自由席・各回入替制です。
*開場は各回15分前です。
*スケジュールは変更になる場合があります。

チケット 前売 大人(13歳以上) 1,000円

当日 大人(13歳以上) 1,200円 子ども(4~12歳) 600円

※ TAMA 映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者1名は当日600円です。

実行委員が選ぶ 2013 年のこの 1 本

cinema
review

2013 年に日本で一般公開 or 初上映された作品のなかから、各実行委員が思い入れ深い 1 本を選びました。それぞれコメントも書いています。映画鑑賞のご参考にどうぞ!

『東京家族』 (監督：山田洋次)

この物語を時代が変わっても現在に当てはめることができたのはなぜだろうか。人間の感情とは時代に関係なく同じなのだと思う。親と子はそれぞれ今も昔も同じことを感じ、そこには子の親へ対しての甘え、又それ以上に親子間でしか伝わらない感情があるのだろう。故に親の死に直面したとき割り切らなければならない状態になってしまうのかもしれない。

セリフの中に母の死を看取った息子が「これからはお父さんは一人になるのだろう」という言葉があるが、3人も子供がいて最後に親を一人にしてしまうのは何とも非情のような気がしないでもない。誰もが経験することだから、仕方がないことと割り切らないで考えてみたい映画でした。

(安藤紀子) 最近はずで引きこもりがち。年は取りたくない!

『ホーリー・モーターズ』 (監督：レオス・カラックス / フランス)

ヘトヘトになりながらも「行為の美しさ」のためにさまざまな役柄を演じる仕事を続けるドニ・ラヴァン。ぼくは、仕事帰りに立ち寄った映画館で居眠りしては「何でこんなヘトヘトになりながら映画館通いを続けているのだろうか？」と呆れることがよくあるのですが、本作を見て勇気づけられました (笑)。「映画の美しさ」を一瞬でも目に焼き付けるためにこれからも生きて行こうと思います。

(佐藤友則) もう映画なんて観たくない! けど観たい映画があるので仕方なく観てます。

『馬々と人間たち』 (監督：ベネディクト・エルリングソン / アイスランド)

午年にもぴったり! 馬好きの人にぜひ観て頂きたい作品です。アイスランドの大自然の中で共に生きる人々と馬たちの姿を描いているのですが、驚きのエピソードの連続で一瞬も飽きることがありません。馬の動きや瞳の美しさがとても印象に残ります。馬が人間を、しょうがないなあ、という感じで助けたり見つめる姿がとてもいいです。

監督の長編デビュー作ですが、昨年の東京国際映画祭で最優秀監督賞に選ばれています。日本での公開はまだ決まっていないようですが、ぜひ公開が決まってほしいです。

(谷口 舞) 最近、自然や動物がたくさん出てくる映画が好きです。今年は乗馬体験がしてみたいです。

『終わりゆく一日』 (監督：トーマス・イムバッハ / スイス)

映画というメディアの本質を考えさせてくれた。パーソナルな映像と音声を、記録より記憶に比重をおいて再構成し、派手ではないが普遍性のある人間ドラマを感じさせた。

ドキュメンタリーとフィクションのあいだを漂うような体験は、観る者に日常の風景がもつ輝きを再確認させてくれる。自分自身と向き合うことで作品を完成させた監督に最大の敬意を表したい。

(山口 渉) 1984 年群馬県生まれ。多摩市に関わって 11 年、住んで 4 年。最近はずアジア映画にも強い関心。

『アクト・オブ・キリング』* (監督: ジョシュア・オッペンハイマー / デンマーク・ノルウェー・イギリス)

「今回見逃せない作品は?」「『殺人という行為』かな」…昨年の山形国際ドキュメンタリー映画祭でお客同士でよくかわされた会話だ。インドネシアで夥しい人数を虐殺した人物が自らの行為を映画化するその過程から炙り出されるのは、一体何か…? 想田和弘監督に「自分の創作意欲が減退するほどすごいとしか言いようのない作品」と言わしめたとか。4月に渋谷シアターイメージフォーラム他全国で公開される本作、是非ご覧いただきたい。

*: 『アクト・オブ・キリング』は『殺人という行為』から改題された。

(越智あい) 転勤族の女房。いつの間にか実行委員 5 年目に。今後行ってみたい映画祭は湯布院、水戸短篇、ちば、カナザワ…ゆうばりにもまた行きたい!



『3D 飛び出す悪魔のいけにえ レザーフェイス一家の逆襲』(監督:ジョン・ラッセンホップ/アメリカ)

スラッシャーホラーの金字塔、『悪魔のいけにえ』正統後継作。

新宿ミラノで公開記念のオールナイトイベントが催されるなど、大きな盛り上がりを見せた。何といたってこの作品には愛がある。レザーフェイスへ、そして過去の作品へ。新進気鋭の若手スタッフ・キャストに過去のシリーズに登場した面々が加わり、絶妙なハーモニーを奏でる。

最強シリーズをドラマチックにアップデートした監督・スタッフ・キャスト一同に拍手!

(橋口 聖) 大学生。大人たちにいろいろともまれてます。だがしかしそれがいい。

『危険なプロット』(監督:フランソワ・オゾン/ベルギー・フランス)

主人公の国語教師のジェルマンが才能ある生徒、クロードに熱を入れて指導するうちにその生徒の書く話にのまれてしまう。ミステリアス。ざっくり言うとこんなお話。

クロード役の俳優さんはヨーロッパの中世絵画っぽいクールな美少年。最初は普通の高校生なんですが、どんどん妖艶に。そのクロードの書く話と共に展開。最後の方は本を読んでいるように夢中でページをめくるあの感覚に。映画と本を足して割ったような不思議な余韻に浸れます。

(中川暢子) すごく浅い目線で映画を楽しんでいます。生き方も浅いです。

『りんごのうかの少女』(監督:横浜聡子)

本作品は青森を舞台にした第1回 TAMA 映画賞受賞作品『ウルトラミラクルラブストーリー』の続編(?)的な42分のお話。主演の中学生は青森のご当地アイドルりんご娘のときが演じている。

『ウルトラミラクルラブストーリー』と同じく、津軽弁中心のセリフは聞き取れない部分も多いが、一筋縄で行かない展開はさすが横浜監督らしい。馬が良い。

多部未華子主演の「真夜中からとびうつれ」、高野文子作品からインスパイアされた「おばあちゃん女の子」と短編が続いているが、やはり、そろそろ長編が観たい。そう言えば会場のユーロスペースでは横浜監督自ら入場者にりんごを配っていた。

(吉野 治) 最近はマームとジプシーとバカ映画を良く観ます。

『楽園の瑕 終極版』(監督:ウォン・カーウアイ/香港)

日本で96年に公開された『楽園の瑕』の再編集版。剣戟の場面はあるもののいわゆる武侠映画を期待すると肩透かしを喰らう。

愛する女性より剣の修行を選んだ男は兄嫁となった女性を忘れられず、砂漠で殺し屋の紹介業をしている。男として育てられ武術を学んだ女は、君に妹がいれば妻に迎えたのにとこの男の言葉を信じるが裏切られ錯乱する。妻の不貞を疑い家を出た剣士は視力を失いかけながら殺し屋家業を続け、妻の元に帰りたいと願う。呑むと過去を忘れる酒「酔生夢死」を呑んでも忘れられない過去がある。

いくつかのエピソードが交錯し、ただひたすら美しい。30代以上の人にぜひ見てほしい。

(石井秀明) 普通のお酒を呑んでも過去を忘れるようになりました。

『百年の時計』(監督:金子修介)

年老いた芸術家と美術館学芸員の交流からはじまる、百年時を刻み続ける懐中時計を巡って過去を想い未来を描くストーリー。本作は香川県を舞台に市民を始めとした地元のサポートのもと作られた「ご当地映画」です。

そんな市井の人目線での物語が、映画ならではのフィクション・想像力で描かれると、自分の周りの身近なところにいろんな奇跡が起こせるんじゃないかって、今あらためて思わせてくれるような——2013年、映画の力を感じる見逃せない感動の名作です。

(宮崎洋平) 今年も会員割引とレイトショー割引を駆使して安く映画を観ていく所存でございます。

次回特別上映会予定 4/12(土)『ペコロスの母に会いに行く』



©「ペコロスの母に会いに行く」制作委員会

認知症の母を介護するバツイチさえない男の物語です。

というと「あ～見るのきついな～」と思うあなた、大間違いです。涙が出るほど笑えます。そしてその涙が自分の心の芯を温かく包んでいることに気づきます。私達の母は私達の父は、それぞれが生きてきた歴史を抱え、自分の物語をひっそりと育てていたことに今更ながら気づかされます。

長崎在住の漫画家、岡野雄一の母を描いた「ペコロスの母に会いに行く」を元に『男はつらいよ フーテンの寅』をはじめとした人情喜劇を撮らせたら右に出る者はいない巨匠、森崎東監督が85歳にして旺盛な創作意欲でメガホンをとりました。

主演は岩松了（ちなみに監督共々長崎出身です）と、ペコロスの母に「渡る世間は鬼ばかり」の赤木春恵（本作89歳、映画初主演）です。親の介護という重いテーマが、ペコロス（小さい玉ねぎのことで、れっきとした日本語ですよ）の頭をなでながらつるつると昇華されていきます。ロケーションを多く使っているので長崎の風景が、私達それぞれの持っている風景に物語を引き寄せていきます。

認知症の母に翻弄される息子と孫に「そお～なんだよな～」と頷き、長崎の原爆が母の物語にひっそりと、しかし重く影を落としていることに歴史の残酷さを感じていきます。「親の介護なんてまだ関係ないよ」と思っている若者にも、実際に親の介護で疲れ果てているおとうさん、おかあさん達にも（私も認知症の母の介護をしている一人ですが）観てもらいたい、そして気づかず流れる涙の意味を大切にしてもらいたい、そんな映画です。本年度のキネ旬日本映画第1位の作品です。

「ボケるとも悪かことばかりじゃ、なかかもしれん」（竹内）

『ペコロスの母に会いに行く』監督：森崎東 / 主演：岩松了・赤木春恵 2013年 113分

* 会場：ベルブホール ※上映時間など詳細は、HP (<http://WWW.tamaeiga.org/>)、チラシなどをご覧ください。

お知らせコーナー

映画祭新実行委員を募集します

第24回映画祭TAMA CINEMA FORUMを一緒に作りませんか？

映画祭の企画・運営に関わってみたい方やまちづくりイベントに興味のある方は、ぜひ実行委員として活動してみませんか。

▼説明会日時：3/30（日）、5/11（日）

各回とも 14時～15時半（13時半より受付）

▼場所：消費生活センター講座室（ベルブ永山3階）

▼内容：

- ① 映画祭が開催されるまで ② 映画の選定方法は？
- ③ 実行委員は何をするの？ ④ どんな人が実行委員なの？等

▼対象：映画祭運営に興味ある方どなたでも

▼申込方法：

電話またはファクシミリで、住所・氏名・年齢・性別・電話番号を永山公民館内 TAMA 映画フォーラム実行委員会 ☎080(5450)7204(直通)、Fax(337)6003へ
映画フォーラム実行委員会ホームページ
<http://www.tamaeiga.org/> からでも申込可能です。

支援会員制度のお願い

当映画祭を一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「見る人、見せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願い致します。

[支援金寄付 個人会員]

一口1000円

郵便振替番号 00160-5-541123

加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会

(ご不明な点はお問い合わせ下さい)

特典①：映画祭チラシ送付

特典②：映画祭パンフレット贈呈

特典③：特別上映会割引(当日料金が半額！2～8月の間に4～5回開催予定)

※その他特典もご用意する予定です。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org/

 @tamaeiga (最新情報をフォロー)  www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね！」で参加)